

★今月の星もよう★

7月7日は晴れの日が多くなり、星空を眺めるのも気持ちの良い季節です。明るい4つの1等星をたよりに夏の星座を探してみましょう。まず1つ目は南の空で赤く輝くアンタレス。アンタレスはさそり座のα星でちょうどさそりの心臓あたりに位置しています。さそり座はS字を描くように連なる形が釣り針のように見える事から、日本では魚釣り星とも呼ばれていました。ちょうど釣り針が天を流れる天の川に掛かっているようにも見えますね。東の空に目を向けると3つの1等星、こと座のベガ、わし座のアルタイル、はくちょう座のデネブが輝いています。この3つの星を結んでできる「夏の大三角」は、夏の星座の目印です。こと座は楽器のたて琴を表す星座で、ひし形の並びをしています。わし座はアルタイルを中心にゆがんだ十字の形をしています。はくちょう座は白鳥が羽を広げた姿をしており、尻尾のデネブからくちばしのアルビレオ、その他の星々を繋いでできる十字の形が特徴的な星座で、南天の星座「みなみじゅうじ座」の「南十字」に対して、「北十字」とも呼ばれています。七夕では、こと座のベガは織姫星、わし座のアルタイルは彦星に例えられ、2つの星の間に天の川が流れています。7月7日の七夕の日は、ぜひ織姫星と彦星を眺めてみましょう。

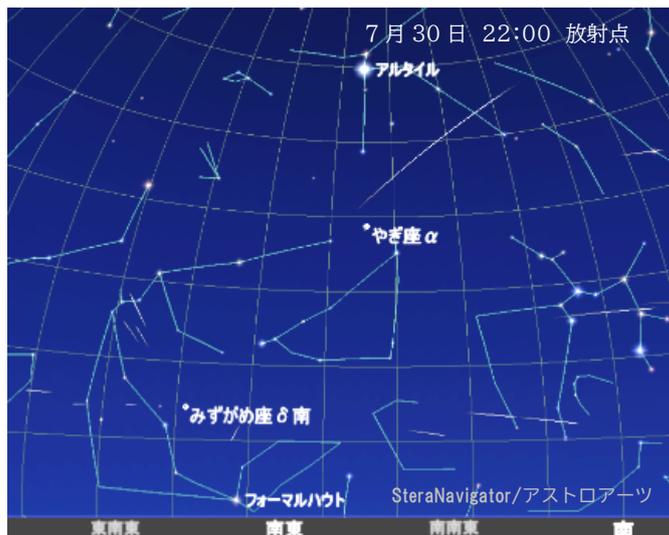


★2つの流星群★

みずがめ座δ南流星群は、毎年7月中旬から8月下旬にかけて活動する流星群で、今年は7月30日から31日に極大を迎えると予測されています。この流星群は、この時期22時頃に南東の空に昇るみずがめ座δ星付近が放射点ですので、南東の低い空から流星群が出現します。

やぎ座α流星群は、毎年7月上旬から8月中旬にかけて活動する流星群で、今年はみずがめ座δ南流星群と同じく7月30日から31日に極大を迎えると予測されています。この流星群の放射点はやぎ座のα星付近にあり、この時期、22時頃に南南東の空に位置しています。

みずがめ座δ南流星群は主に南半球で観測され北半球ではあまり見られず、やぎ座α流星群も規模が小さいためあまり多くの流星は出現しませんが、その他複数の流星群が同時期に発生するため、広く空を見渡せば1時間に10～15個程度の流星を観測できるかもしれません。新月の7月25日から7月31日にかけて、22時以降から深夜、未明の時間に観察するのがおすすめです。その際はスマホや懐中電灯の光を控え、暗闇に目を慣れさせてから観察してみましょう。



★天の宝石・アルビレオ★

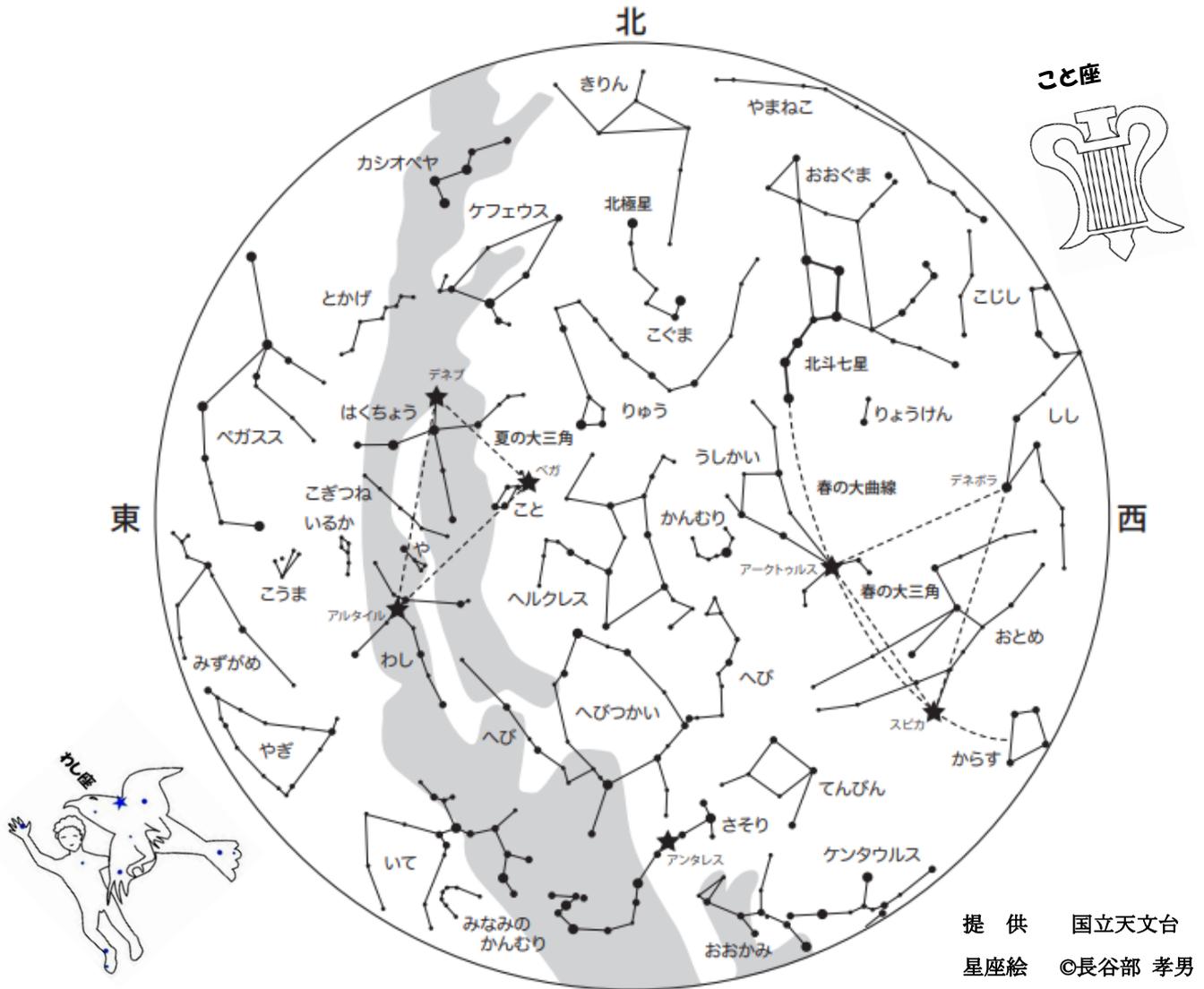
はくちょう座β星アルビレオは、はくちょう座のくちばし部分で輝く3等星で、ベガとアルタイルの中間地点付近に位置しています。アルビレオは肉眼では1つに見えますが、天体望遠鏡で見ると、オレンジ色の明るい星(アルビレオA)と青い星(アルビレオB)が美しく並んだ二重星であることがわかります。宮沢賢治の「銀河鉄道の夜」にはアルビレオの描写が登場し、アルビレオA、Bはそれぞれ宝石のトパーズとサファイヤに例えられています。天体望遠鏡を持っている方は、ぜひこの美しい二重星を観察してみてください。



☆プラネタリアムの内容については、別刷りの「投影案内」をご覧ください

☆プラネタリアムのお休み 7/7(月)、14(月)、16(水)、22(火)、28(月)

7月中旬午後9時頃の星空



提供 国立天文台
星座絵 ©長谷部 孝男

★ 7月の主な天文現象 ★

3日(木)	● 上弦
4日(金)	水星が東方最大離角
11日(金)	● 満月 (バックムーン)
18日(金)	● 下弦
21日(月)	明け方に細い月とプレアデス星団が接近
22日(火)	明け方に細い月と金星が並ぶ
25日(金)	● 新月
30日(水)	みずがめ座 δ 南流星群が極大 やぎ座 α 流星群が極大

南

イベント情報 (中央図書館2階事務室で受付)

- ★望遠鏡工作教室
7/26(土)、7/27(日)、8/2(土)、8/3(日)
各 午前の部 10:00～、午後の部 14:00～
※8月は午前の部のみ開催
会場:中央図書館集会室
対象:豊川市内の小学生と保護者
参加料:1組3,900円 申込:7/5(土)～
- ★親子お天気教室
8/24(日) 午前の部 10:00～、午後の部 14:00～
講師:榎野泰夫氏
会場:中央図書館集会室
対象:豊川市内の小学生(3年生以上)と保護者
参加料:無料 申込:7/26(土)～8/3(日)
※応募多数の場合は抽選